

# レッドデータブック（日常生活地域文化編） 開設の提案

平成27年度  
「夢アイデアコンテスト」出展作品

矢ヶ部輝明

# 提案の動機



休日の旅行等でふれる地方は、 . . . . .

- 観光パンフレット等の写真でも見る名所・旧跡の景色、グルメ雑誌等で紹介される郷土料理、「おもてなし」してくれる旅館やホテル
- このような地方のイメージは、確かに、「いい思い出づくり」としてはとても大切です。



出張や現地調査等の日常業務でであう地方は、 .

- 飾らない地方の姿にふれる機会ではありますが、仕事以外の事柄については、泊りがけ出張の夜の一杯以外は、忙しい時間の合間の一瞬の出会いです。

## 提案の動機（続き）

- 一方で、5年前から始めた共助研活動で巡る地方は、
- 田植え・稲刈り、あるいは草原の草刈りなどの地元の方々との共同作業を通して、その土地での日常生活と出会うことができる機会を与えてくれました。特に、泊りがけの活動となると、格別です。
  - その機会を通して、それぞれの地方で、その土地ならではの風習や食べ物、生活のスタイル等があることも理解されました。
  - 素朴だけどおいしい、いや、素朴だからおいしい食べ物。・・・長谷地区の「お焼」！！！！
  - 何も無い、いや、豊かさにあふれている  
田園風景



## 提案の動機（続きの続き）

- これらは、**都会者にとっては、感動！！**ものですが、地元では、毎日のことで当たりまえとされているので、特に、意識されていません。
- 普通の、いや、普通のことだから大切にしなければならぬことが、地方にはまだ仰山あります。

しかし、・・・・・・・・

地元の方の一言、

「このお焼も、作れる人がだんだんいなくなってきたねえ。おやつのお食べ物も今では、スーパーから買ってくるお菓子が主流だね」



## 提案の動機（続きの最後）

- 現在、地方において、人口の社会減に続いて、自然減の現象がおきており、**人知られずに消えていく**集落や村が、今後、無数に出てくるのではと言われていいます。
- 一旦消えてしまえば、その記憶は消え、存在しないこととなってしまふ。
- その時には、「お焼」は食べられなくなる、いや、「お焼」の存在さえなくなってしまう・・・

あまりに、この現実には、寂しいことではないでしょうか！！  
そして、後世の人は、永遠に「お焼」のおいしさを味わうことができないというこの残酷さ！！



# 人知られず消えていく地方の文化

- 神楽・風流等で無形文化財として登録されているものは、残していこうというムーブメントが働きますが、そうでない一般的な風習や行事は、残さなければという意識が生まれず残っていかない。
- これは、みなさんの写真アルバムを見てもらえば、思い出（誕生、旅行・入学式等のイベント）の写真は数多くありますが、**普段の生活（夕食の写真、家族団樂の写真等）は、残っていないはず。**
- しかし、 . . . .

そんな思い出も大切だと思いませんか



## 提案の目的

- 現在、「いいもの」「本物」「健康志向」「地方色」への関心は高く、しかも、このインターネットが生活に溶け込んでしまったIT社会では、知る手段も知らしめる手段も、私たちは持っています。
- この現代社会の機能・特徴を最大限生かして、自然に消え去っていきこうとしているこれらの「日常生活的文化遺産」ともいうべきものの存在そのものを知ること、知らしめることが重要だと考え、ここに「**レッドデータブック（日常生活地域文化編）**」開設を提案するものです。

# 知らしめるための仕組み

なお、知らしめる方法としては、「ぐるナビ」のような、観光名所や美味しい食べ物の紹介する方法もありますが、これでは、危機感が伝わらないのでは思われ、

また、グルメで行われている「ミシュランのガイドブック」のような「（三ツ星マーク）」のようなものとする考えられますが、ちょっと遊びムードが入ってくるため、

緊急性、危機感を醸し出すため「レッドデータブック」でいこうと判断しました。





## その効果は

- 最低限、記録として残すことで、興味を持った人が誰でもどこでもトレースすることができる。
- 現存する今、残していきたい日常生活、日常の風景、日常の食事等として見直す契機となる。
- 過疎集落等で辛うじて引き継いできた文化、集落消滅等により人知られずに消えていく文化を後世に引き継ぐことにより、人生の楽しさを倍増させる。
- 「素朴」だが、「本物」で、「自然」そのものの食べ物や営みを後世に残すことにより、「自然」「本物」を大切にしてきた日本人の心を伝える。

# ちなみにレッドデータブックとは

- 野生生物の保全のために、絶滅のおそれのある種を的確に把握し、一般への理解を広める必要があることから、環境省では、レッドリスト（日本の絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト）を作成・公表するとともに、これを基にしたレッドデータブック（日本の絶滅のおそれのある野生生物の種についてそれらの生息状況等を取りまとめたもの）を刊行しています（HPより転用）



# 環境省のRDBカテゴリ

- 絶滅（EX）：我が国ではすでに絶滅したと考えられる種
- 野生絶滅（EW）：飼育・栽培下でのみ存続している種
- 絶滅危惧I類（CR+EN）：絶滅の危機に瀕している種。絶滅危惧IA類（CR）：ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種
- 絶滅危惧IB類（EN）：IA類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種
  
- 絶滅危惧II類（VU）：絶滅の危険が増大している種
- 準絶滅危惧（NT）：現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種
- 情報不足（DD）：評価するだけの情報が不足している種
- 付属資料「絶滅のおそれのある地域個体群（LP）」：地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの

# 今回の分類とカテゴリー



分類：対象とする項目

- 日常生活（行動）
- 日常的な食事（ご馳走は含む）、おやつ 等
- 日常的な遊び（子供の遊び、大人の遊び）
- 竹細工等ものづくりのノウハウ（技術やコツや知恵）

\* 歴史遺産、無形文化財等のものは含まない

カテゴリー：対象とするもののランク

- 絶滅（記録が残っているだけで知っている人はいない）
- 絶滅危惧（継承してないが知っている人がいる）
- 準絶滅危惧（継承中だが、将来（10年後程度）には、絶滅危惧、準絶滅危惧になることが想定される）

# ランク：絶滅

(記録や資料が残っているだけで、  
作り方等を知っている人はいない)

## 対応

- 関連する思い出話や写真、資料等を持っている人を探し当て、収集し記録する。
- 残されている記録を「レッドデータブック データバンク」に資料として保管する。
- 復元、再現するための何らかの情報を集め、整理しておく。



# ランク：絶滅危惧

(継承していないが知っている人がいる)

## 対応

- 興味を持った人がトレースできるように、知っている人より、「レシピ」「やりかた」「作り方」「遊び方」を聞き、記録しておく。できれば、作っているところを再現し、ビデオ等に記録する。
- 知っている方からの関連する思い出話や写真等を収集し記録する。
- 作成された記録は、「レッドデータブック データバンク」に資料として保管する。

まだ、しっかり  
覚えてますよ！



# ランク：準絶滅危惧

(継承中だが、将来、危ぶまれる)

対応継承している人の行動をビデオ等で記録するとともに、興味を持った人がトレースできるように、「レシピ」「やりかた」「作り方」「遊び方」を聞き、記録しておく。

- 現存する方からの関連する思い出話や写真等を収集し記録する。
- 作成された記録は、「レッドデータブック データバンク」に資料として保管する。



# 情報収集方法

- ネット上に掲載し、一般に呼びかける方法
- 地方で活躍する建設コンサルタント技術者のネットワークに期待する方法（田園回帰技術者等）
- 建設コンサルタント技術者およびOBに、故郷情報の収集を呼びかけ収集する方法（正月・盆の故郷に帰省時に情報収集してもらう 等）。



- 地方自治体の行政マンの協力による収集



## 情報収集方法（続き）

- 情報収集は、基本は、ボランティア（プロボノ）であるが、登録者としての名前が残ることによってインセンティブが働くのではと期待されます。
- また、JCCA等の団体は、地方自治体へ、登録業務を委託業務とするよう働きかける（地方で頑張る個人技術者支援にもつながることが期待できる）。
- とりあえず、JCCA九州支部が旗を振り、「2016九州版」を立ち上げることを期待したい。



## 運用・情報発信

- 「レッドデータブック（日常生活地域編）」は、オンライン上での情報提供とし印刷物とはしない。
- ランク付けは、登録者が選択する。
- 登録内容に関する責任は、登録者に帰属する。
- 隔月1回（2か月に1回）、運用会議（フォーラム）を開催し、登録提案があった件名に対し審査し、審査合格したものを登録する。なお、登録会議メンバーは5名程度とし、運用組織関係者＋第三者で構成する。登録の是非が分かれた場合は、多数決とする。
- 登録内容にする意見等を受けるコーナーを設ける

## その他、懸案事項

- 「レッドデータブック」という名称を使用する許可を得る必要がある。なお、使用が認められない場合は、「失われつつある地方文化を守る本（和文）」、「ローカル・カルチャ・ブック」等と称し、通称（あるいは俗称）として「レッドデータブック」を用いる。
- 掲載する情報の著作権は、登録者（委託業務として収集されたものは発注者）、および、情報提供者にあるものとする（今後、要検討）
- ただ、商品化する等でなく、個人で楽しむ分には、「レシピ」や「ノウハウ」は、自由使用とする。

# 最後に



- 残された時間は、あまりありません！、いや！、動物の絶滅危惧種同様に、すでに、毎日、いくつもの「日常生活地方文化」が消えつつあります。
- この素晴らしい情報ネットワーク時代の最大の武器インターネットを駆使し、この矢われつつある「日常生活地方文化」の継承、特に、あの最高においしかった長谷の「お焼」を未来の子供たちのためにも、世界中の人にも知ってもらい、また、人類が続く限り、継承していきたいものです。

キャッチフレーズ：

**「日本の田舎文化を永遠に」**